



# AGIとBI

## 第3回 ロボティック・シンポジウム

# ロボットテクノロジーの劇的進展と ベーシックインカム 究極の社会保障

～誰もがよりクリエイティブでココロ躍る時間=ワレラの時代を生きるために～

汎用人工知能 (AGI) を含むロボットテクノロジーが2045年に人智を超える一里塚 (シンギュラリティ) であるなら、同様に2045年がすべての国民に無条件で現金を支給するベーシックインカム (BI) 導入の一里塚にならないか。海外の最新動向や国内現状認識と併せ、ロボットテクノロジーの劇的進展とベーシックインカム導入の道筋を多様な参加者と共に考えていきたい。

テクノロジーが革命的に進展する時代には、究極的な社会保障が必要である。

2045年のシンギュラリティを見据えて成長戦略と社会保障を両輪 (セット) で考える。



シンギュラリティの実現は2030年前後とも言われている。

開催日 2016年6月3日(金) 19:00 ~ 22:00 (受付18:30)

会場 Samurai Startup Island (裏面地図)

募集定員 30名

参加申し込み、問い合わせ先

氏名、所属先、メールアドレスをご記載の上、下記アドレスにお申し込みください。

[seminasanka@npo-ric.org](mailto:seminasanka@npo-ric.org)

参加費 (交流会含む) ¥1,000 5/31 (火) までに参加申し込み  
¥2,000 当日参加及び6/1以降に参加申し込み

当日会場受付にてお支払いください。



## ロボットテクノロジーの劇的進展とベーシックインカム 究極の社会保障

### ▼タイムテーブル

18:30 - 19:00 受付

19:00 - 19:40 ロボティック・ワークスタイル・オペレーション

～ロボットとの協働により変容する職場・雇用環境～

好むと好まざるにかかわらず、AIを含むロボットテクノロジーの進展により、あらゆる分野、業種で劇的な変化が進行している。職場や雇用環境は変容し、労働に対する価値観の転換が起こりつつある。単純でツライ仕事はロボット等による自動化が進み、ヒトはより付加価値の高い業務に従事していくことになるのか。果たして、オペレーションを担う主体は今後ヒトから機械へと変わっていくのか。誰もがよりクリエイティブでココロ躍る時間を生きる「フレラの時代」について考えていきたい。

19:40 - 20:30 ベーシックインカム：ケインズの予言・人工知能・ヨーロッパの運動の現在

今から80年以上も前に、経済学者のジョン・メイナード・ケインズは、技術革新によって社会にとって必要な労働の総量が減り、失業者が増大すると予言した（「技術的失業」）。しかしケインズにとって、それは嘆かわしいことではなく、私たちが糊口をしのぐための労働から解放されて、真に自由に生きることができるようになる福音なのだとバラ色に描いてみせた。人工知能やシンギュラリティをめぐる最近の論調は、このケインズの予言を思いおこさせる。ヨーロッパなどのベーシックインカムをめぐる新しい動きを手掛かりに、ケインズの予言について共に考えたい。

20:30 - 21:00 討論

「フレラの時代」～誰もがよりクリエイティブでココロ躍る時間を生きるために～

・BI最新海外動向

～オランダ、スイス、フィンランド、カナダ、アメリカ など～

・国内の現状

～経済団体、科学技術振興団体、政党の動向 など～

・BI導入のためのロードマップ

・BI導入のためのアイデアソン など

21:00 - 22:00 交流会 飲料と軽食を用意しています。

### 会場: Samurai Startup Island



東京都品川区東品川2-2-28-2F

エレベーターは利用できません。階段から2Fへお上がり下さい。

### 登壇者プロフィール



小林 賢一 Kenichi Kobayashi

株式会社ロボットメディア 代表取締役

認定NPO法人ロボティック普及促進センター 理事長

ロボット保険サービス 代表 (2012～)、日本ロボットビジネス体系講座

主宰 (2014～)、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会 事務局長

(2011～2015)、ロボット実証実験実行委員会 委員長(2011～2014)。

介護・医療分野ロボット普及推進委員会 委員 (2010～2012) など。



山森 亮 Toru Yamamori

同志社大学経済学部 教授。Basic Income Earth Network 理事。

2014 Basic Income Studies Best Essay Prize受賞。関連図書に『ベーシックインカム入門』(光文社新書)、『貧困を救うのは、社会保障改革か、ベーシックインカムか』(橋本俊詔との共著、人文書院)、Basic Income in Japan (Y. Vanderborghtとの共編、Palgrave Macmillan) ほか。

### ロボティック・シンポジウム

ロボットテクノロジーの劇的進展により生ずる様々な社会的影響についてそのメリット、デメリットを含め、客観的に論じ、参加者と共に考えていく。

第1回「ロボット関連技術の境界線 ～発展する無人機の可能性と国際動向～」

(2013年11月8日 東京ビックサイト)

第2回「5年後の世界 ～ロボット、量子コンピュータ、量子暗号～」

(2016年1月27日 東京ビックサイト)

※ベーシックインカムとは「すべての人に必要最低限の所得を給付する」という社会政策。仕事をしているか否かに関係なく、国は個人に対して無条件に現金を定期的に給付する。支給資格を審査したり、仕事に関する条件を設けたりすることはない。働けば働くほど収入は増加し、その分は税金として回収される。必要最低限の所得が保障されることで働き方が多様化し、労働意欲も向上すると考えられている。